

- 実施主体 環境省九州地方環境事務所 阿蘇自然環境事務所
- 実施場所 新宮牧野組合（阿蘇市）、（小森原野組合（西原村））
- 実施期間 平成 27 年 8 月 18 日



◇背景・ねらい

阿蘇草原再生協議会の自然再生全体構想の下、草原再生事業の一環として、野焼き再開のための防火帯作りや小規模樹林地除去等、草原管理作業再開への支援を行ってきた。

これら事業の効果を検証するためには、草原管理作業再開により草原が再生された場所において、管理作業再開の前後における生物多様性の変化を定量的かつ効率的に評価する必要があるが、そのような評価手法はこれまで開発されていなかった。そこで、平成 22 年度より、活用可能な評価手法の開発を目的として、本業務を実施している。

◆実施概要

- ・新宮牧野組合の草原で、阿蘇市、南阿蘇村の小学生 10 名による生物多様性評価調査マニュアルを使った、牧野の健康状態をチェックする学習会を実施した。事前学習として、草原学習館で調査の説明、注意事項等のレクチャーを行ったあと、現地に移動した。
- ・調査は、3m×3mのコードラードを2箇所設置し、採草型草地と野焼き地で実施。調査時間は暑さを考慮し1箇所あたり30分前後とした。18種類の指標種の出現状況を調査マニュアルに基づいて調べ、点数化して生物多様性の評価を行った。その結果、2箇所とも60点以上であり、牧野の健康状態は良好ということがわかった。
- ・夏期における調査マニュアル試行であり、非常に暑い中、子どもたちは熱心に調査を行った。

※小森原野組合主催による同試行は、組合員と子どもたちが参加し環境省も協力して実施された。→前頁「14. 小森原野における植生調査と草原環境学習」参照。

◆実施体制

- ・環境省阿蘇自然環境事務所 受託者：(株)九州自然環境研究所
- ・植物などの専門家、新宮牧野組合、小森牧野組合

◆成 果

- ・小学生 10 名 スタッフ 7 名
- ・牧野組合員の方々も対象にしていたが、あまり参加がなかった。
- ・初めての試行であり、改善すべき点は多くあった。

◆実施者の感想

- ・指標種が盆花採りの8月前後に見られるものを対象としているため、夏休み期間中の子どもたちを対象に行ったが、子どもたちを集めるのは難しい面がある。
- ・指標植物のサンプル写真を用意しチェックしたが、開花していない植物を見つけ出すのは困難な面があり、事前の学習や専門家の指導が必要。
- ・調査時期は真夏は避けた方が良い。草丈も長く、日陰もないので熱中症などの危険性がある。

熊本 10 版 2015 年(平成 27 年) 8 月

阿蘇の草原、元気かな

新宮牧野 小学生ら「健康診断」

環境省九州地方環境事務所が18日、阿蘇市の新宮牧野で地元小学生を対象にした学習会を開いた。事務所で作成中のマニュアルを使い、児童や職員ら阿蘇の草原の「健康状態」をチェックした。



見つけた植物の花を観察する子どもたち＝阿蘇市の新宮牧野

採草、野焼き、放棄 点つけ実感

同省は阿蘇の草原保全を目的に、牧野の生物多様性を点数化して健康状態が分かるようにしようと、2011年からマニュアルづくりを進めている。南北の外輪山、中央火口丘など特徴の違う六つのエリアに分けて作っていて、これまで5エリアが完成。マニュアルを使った学習会は初めて。

マニュアルでは、エリアごとに「採草」「野焼き」「放棄」によって増える植物の写真や特徴を6種類ずつ紹介。調べたい2カ所で見つけた植物の種類などに応じて点をつけ、「健康状態」を評価。「採草」で増える植物が多いと健康状態は良く、「放棄」で増える種類が多ければ悪くなる。

この日の学習会には阿蘇市などの小学生10人と環境省職員ら約20人が参加。北外輪山地域のマニュアルを手に、アソノコギリソウ、サフヒヨドリ、サイヨウシャジンなどの草花を見つけては、チェックしていた。

九州地方環境事務所は「草原は草刈りや野

学習会の様子を伝える
朝日新聞記事
(2015年8月19日)